岳南朝日

岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1
代　表（0544）28-0200
ＦＡＸ（0544）28-0218
編　集（0544）28-0234
営　業（0544）28-0220
月977円　1部60円

総合建設業
佐野藤建設株式会社
日本の生態系を五十年前に戻す為に貢献します。

購読申し込み先
●富士宮（0544）
鈴木新聞店 ☎26-3285
中野新聞舗 ☎23-3333
勝亦新聞店 ☎26-1100
SHC南部支店 ☎26-2543
中西新聞店 ☎28-1133
●吉原（0545）
植草新聞店 ☎52-0370
鈴木新聞店 ☎52-5503
星野新聞堂 ☎52-0376
●富士（0545）
雨森新聞舗 ☎61-5049
田畑新聞店 ☎61-0011
星野新聞堂 ☎61-0275
●鷹岡（0545）
安倍新聞店 ☎71-3327
SHC鷹岡支店 ☎71-8156
望月新聞店 ☎71-2647
●富士川（0545）
石井新聞店 ☎81-1333
佐野新聞店 ☎85-2093

15年度病院事業会計決算

純損失4億7028万円

前年度に比べ赤字幅半減

富士宮市議会9月定例会本会議で決算審査特別委員会に付託された2015年度病院事業決算を見ると、病院事業全体の収益的収支は4億7028万1490円の純損失となった。整形外科の診療縮小で依然厳しい経営状況にある中、麻酔科、小児科の常勤医師確保、各診療科での積極的な入院・外来患者の受け入れ、経営改善計画の実施による収益の増加などにより、赤字幅を前年度に比べ半減させた。

市立病院の15年度患者数は24万942人で前年度比8983人（3・9％）増加した。うち入院患者は年間延べ8万9656人（一日平均245人）で前年度比2665人（3・1％）増。病床利用率は70・0％で同1・9ポイント上昇、平均在院日数は10・7日で同0・3日短縮した。入院患者1人1日当たりの診療報酬額は前年度と比較し1435円の増額となり、入院収益は前年度比2億6552万8000円（5・9％）の増収となった。

外来患者は年間延べ15万1286人（一日平均623人）で同6318人（4・4％）の増となった。外来患者1人1日当たりの診療報酬額が前年度比392円の増額となり、外来収益は前年度比7億476万5000円（27・8％）の増収となった。

収益的収支（1000円以下四捨五入）をみると、入院収益が47億3339万円（前年度比5・9％増）、外来収益が32億3772万円（同27・8％増）となり、医療相談収益などを含めた医業収益は80億8694万円（同13・7％増）。医業外収益7億8309万円（同11・5％増）、保育所収益305万円（同7・2％減）となり、病院事業収益全体は88億7308万円（同12・1％増）となった。

これに対し医業費用は89億7299万円（同8・1％増）、医業外費用が3億4377万円（同18・0％増）、保育所運営費2659万円（同18・0％増）となり病院事業費用全体では93億4336万円（同5・5％増）。

差し引き4億7028万円の赤字となった。これに繰越欠損金7億7237万円を加えた12億4265万円が当年度末処理欠損金となった。

純損失は前年度と比較し4億6628万円（49・8％）の減となった。前年度に引き続き医師確保に努めたが、整形外科の診療体制縮小の解消には至らなかった。しかし、施設整備の長寿命化対策の推進、医療機器の更新を実施し、効果的な検査、治療に対応できるよう努めるとともに、病院全体で経営改善計画に取り組んだ結果、入院・外来患者が増加し、収益の改善が図られた。

資本的収支を見ると、ナースステーション系統空調機の更新工事に6178万円、厨房消火設備更新工事に475万円、医療機器購入に3億2139万円、備品購入に2276万円を支出。主な財源は一般会計出資金2億1402万円で、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する3084万円は過年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てんした。

富士宮高校会議所が定例会

西高、富岳館高生が発表

馬車鉄道や環境保護活動で

富士宮高校会議所の第5回定例会が17日、富士宮市西町の西町レトロ館で開かれた。今回は富士宮西高校社会研究部が「富士宮の産業革命を支えた静岡初の馬車鉄道」、富岳館高校の農業クラブ・キノコ班が「被災地に緑を！―全国の農業クラブと挑戦した環境保護活動」と題し、それぞれの研究成果を披露した。

富士宮西高社会研究部は郷土研究とボランティアを軸に活動。「馬車鉄道」は2014年から研究・調査を重ね、全国高等学校郷土研究発表大会で発表している。

発表では、馬車鉄道のことを知り研究を始めたいきさつから、同鉄道の成り立ち、時代背景、役割などを地図や当時の写真などを使って紹介した。

富岳館高農業クラブ・キノコ班は、キノコから抽出した物質「AOH」を使った研究を長年続けており、その中で宮城県を流れる鳴瀬川河口にある堤防の緑化に挑戦。高校生や企業を対象にしたコンテストでの入賞を果たしている。

発表では、製紙の廃材であるペーパースラッジと「AOH」を融合させたチップの製造や、堤防が緑に変わっていく様などを写真で紹介した。

研究成果を発表する富士宮西高社会研究部の生徒たち

会場には市内の各種団体代表や商店街店主らが訪れ、質疑応答では発表した生徒たちとの活発な意見交換も繰り広げた。

次回の定例会は10月16日、同市羽衣公民館で、第1回パフォーマンス大会と題し、静岡西高校のバンド発表や地元高校生の発表などが行われる。現在、舞台に出場する高校生を募集中。問い合わせは同会議所事務局・時田さん（電090―5008―5439、メールsadanori1615@icloud.com）へ。

建築物耐震化の重要性再認識

須藤市長が視察報告

熊本県益城町など訪れ

須藤秀忠市長はこのほど、8月下旬に参加した2016年度全国治水砂防協会静岡県支部「市町長等県外視察」の報告をまとめた。熊本地震被災地ではあらためて建築物の耐震化の重要性を感じたという。

一行は3日間の日程で熊本県益城町、長崎県五島市を視察。益城町は4月の地震で死者21人、全壊家屋2713棟の甚大な被害が発生した。

須藤市長は「現地の道路や水道など生活インフラの復旧は進んでいるものの、倒壊した家屋がいまだにそのままの状態で、本格的な復旧にはまだまだ時間がかかると感じた。倒壊家屋は古くからの木造、瓦ぶきの建物が多い」とし、耐震化の重要性をあらためて実感したという。

五島市は大小152の島々からなる五島列島の南西部にあり、11の有人島と52の無人島で構成。総面積420・04平方キロメートル、人口3万9117人。地震対策や台風などの風水害対策、鬼岳火山防災対策についての意見交換や急傾斜地崩壊対策事業の視察などを行った。用地取得について地元との交渉や既存樹木を残した斜面対策の工法とその効果などを学んだ。

熊本県益城町の被災地を視察する須藤市長（中央）ら県内首長

市議会9月定例会

きょうから本会議再開

開会中の富士宮市議会9月定例会は20日に本会議を再開し、補正予算案や条例案などについて質疑、討論、採決。21日の本会議から一般質問に入り、祝日、土、日を挟み27日までの4日間で18氏が当局の姿勢をただす。

休会を挟み29、30両日に決算審査特別委、10月3日に総務文教、環境厚生両委員会、4日に産業都市委員会を開く。11日に本会議最終日を迎え、委員長報告に対する質疑、討論、採決を行い閉会する。

富士宮商議所

後任会頭に河原崎氏内定

11月1日の臨時議員総会で決定

富士宮商工会議所は、10月末で任期満了を迎える長谷川浩之会頭（70）＝㈱エッチ・ケー・エス代表取締役社長＝の後任に、河原崎信幸副会頭（66）＝シンコーラミ工業㈱取締役会長＝が内定したと発表した。11月1日の臨時議員総会で正式決定する。このほど開いた第2回常議員会で決定し、3人の副会頭人事については人選を進めている。

長谷川会頭は2007年11月の就任以来、3期9年間にわたり地域産業界をリードしてきた。河原崎副会頭は長谷川会頭の補佐役として同期を務め、次期会頭就任の決意を固めた。

臨時発刊 本日4ページ